

東北森林管理局

山形森林管理署 もがみ支署通信

広葉樹の用材利用を広げよう —《木の香るふれあいセミナー》開催



講演「注目される広葉樹資源と利用の実態、そして可能性」

3月2日(火)新庄市の「雪の里情報館」にて、最上総合支庁森林整備課の主催で開催されました。会場では「木製ままごとキッチン」など、かわいらしい製品が来場者を迎えてくれました。

「広葉樹を暮らしに活かす山形の会」代表の佐藤恒治氏による講演では、県内の広葉樹林を適正に管理し利用する技術の確立と、広葉樹の伐採から加工までを、それぞれ扱う技術者の養成が必要であると強調されました。

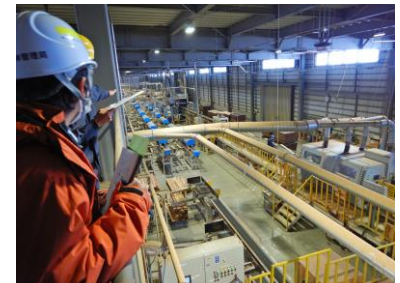
国有林においても、生産される広葉樹の用材利用拡大に向けた取組を進めて参ります。

木材資源の循環利用を学習しました —新庄市内と最上町内で研修—

【3月4日(木)午前】新庄市の工業団地内の、もがみバイオマス発電(株)はボイラー棟(写真右上)とタービン棟、マルカ林業(株)は燃料の木質チップを製造する工場をそれぞれ持つ2社は連携して、新庄市の約1400世帯分をまかなう電気を発電しています。

また、マルカ林業では苗木生産や森林の育成も手掛けており、渡部常務の「山作りがあって、はじめてバイオマス発電がある」とのコメントが印象的でした。

【午後】協和木材(株)では、山形県内の木材生産量の約2割に相当する年間約12万m³の原木が、大規模な自動化により管柱を中心とする集成材等へと製品化されていました(写真右下)。4月以降は新ラインを増設して、1.5倍の規模に拡大する予定です。



【3月10日(水)】最上町役場職員から森林経営管理制度、森林環境譲与税等への取組について説明(写真左上)を受け、次に木質バイオマスエネルギー地域冷暖房システムと関連施設を視察しました。(株)もがみ木質エネルギーのチップ工場で細片化されたチップ等が、ウエルネスタウンと若者定住環境モデルタウン(写真左下)で複数のボイラーの熱源(冷暖房)として利用されており、町を支える再生可能エネルギーの取組に感動しました。

最上地方の森林整備の推進と、豊富な木材資源の循環利用に向け、安定的な供給が期待されていることを強く感じた研修でした。

研修を受け入れてご案内下さいました各社・役場の皆様には、深くお礼申し上げます。



サクラ

山形森林管理署 最上支署
〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字新町字下荒川200-11
TEL:0233-62-2122/FAX:0233-62-2706

